



小呂湿地で保全活動をしている協議会のみなさん。

こうした作業には、市職員と保護の会メンバーのほかに岡崎北高校の有志生徒も参加しています。「木道に使う板は1枚10kg。元気で力のある学生さんたちが率先して運んでくれるので頼もしいです」と初代会長で現在は相談

地元の高校生と一緒に、草刈りや木道補修
保全活動は毎月第1土曜日を実施しており、湿地の周辺にあるアカマツなどの二次林の間伐や湿地の草刈り、木道の補修を行っています。特に冬に行う草刈りは、春から夏にかけて芽吹く



市では30by30の実現に向けて「生物多様性の保全」に取り組んできました。そんな中で、歴史的な自然遺産を後世に継承するために自然共生サイトに申請しました。
メリットとしては、
①生物多様性の保全に貢献できる
②認知度が向上する
③市民が小呂湿地の魅力を再発見できると考えています。



自然共生
サイト

case
5

【愛知県岡崎市】
岡崎市 小呂湿地

失われゆく市内の湿地を保全し、固有種を守り続ける

かつて水田だった小呂湿地には、希少な動植物がたくさんいます。そのいのちを守るため、市とボランティアが立ち上がりました。

湿地で暮らす希少な動植物のいのちを守りたい！

小呂湿地は岡崎市の中央部に位置する小呂町の丘陵地帯の谷間にある湧水湿地です。この一帯は西三河地域湧水湿地群と呼ばれ、かつては多くの湿地が点在していました。しかし、宅地開発などにより、その多くが消滅。比較的大きなものは市内では本湿地と北山湿地の2カ所だけになってしまいました。

小呂湿地にはサギソウ、カキラン、ハッチョウトンボ、ヒメタイコウチ、ニホンアカガエルなどの希少種や固有種が暮らしています。また、北山湿地では見られないツヤネクイハムシやホソクロマメゲンゴロウもいます。

「ここがなくなれば、貴重な動植物たちも失われてしまう」と危機感を



日本一小さなトンボとしても知られる、ハッチョウトンボ（メス）。

役の名倉正志さんも嬉しそう。

しかし、この日は心配事が1つ。

「この時期は絶滅危惧種のニホンアカガエルの産卵時期ですが、晴れ続きで水たまりが消えてしまい、産卵場所がないのです」と鈴木会長の顔が曇ります。作業の傍らみんなで卵を探しますが見つかりません。諦めかけたとき、「あつた！」の声が。かろうじて残っていた小さな水たまりに1つだけ卵塊がありました。

ここで生まれ育った「小呂湿地固有のDNA」を残していきたい

小呂湿地は、自然共生サイト以外にも市の自然環境保護区に指定され、県の天然記念物に登録されています。こういった区域は多くの場合、入場が制限されますが、小呂湿地は常時一般公開です。特にサギソウの群落が有名で、

環境再生保全機構 担当者から

固有種や絶滅危惧植物が息づく小呂町の湧水湿地を、市と市民が連携し継続的に守る取組は、地域一体で自然を未来へ引き継ぐ好例であり、他地域にも大いに参考となる事例です。

夏には真っ白な羽を広げたサギそっくりの花が満開になる様子を見られます。市職員の濱川共香さんは、「自然共生サイトの認定をきっかけにもっと多くの人に知ってもらい、湿地の重要性や生物多様性の大切さに気付いてもらえれば。そのために、今後観覧会などを開いて認知を広げていきます」と。そして、「みんなで生態系を守り、ここで生まれ育った「小呂湿地固有のDNA」を大事に繋いでいきたい」と決意を語ります。
そのためには保全活動に参加してくれる仲間の継続的な確保が不可欠です。鈴木会長は保護の会を「市によるリーダーシップと有識者によるバックアップの両面が備わっている全国的にも恵まれた組織」と評価し、「今後はこの会を次世代に受け継ぐための人材育成にも力を注ぎたい」と話します。

申請者／岡崎市
実施区域・面積／愛知県岡崎市・3.35ha
活動類型／生物多様性の維持
生物多様性の価値／①②③④⑥
URL／<https://www.city.okazaki.lg.jp/1100/1108/1155/p038187.html>



同サイトの活動中のエピソードや解説動画は、左記からご覧ください。